

皆さん、おはようございます。ただいま議長より登壇の許可をいただきましたので、ただいまより山口等の一般質問をさせていただきます。

今回は5項目の質問を予定しております。まず最初に公共下水道事業についてでございます。2つめに公共工事の電子入札及び完成図書の電子納品についてでございます。そして3つめに道路行政について。4番目に、最近ブームになっております九州オルレについて。そして最後に武雄保育所のその後についてでございます。

では早速質問に入らせていただきます。

まず始めに公共下水道事業についてでございますが、武雄浄化センター建設工事は、1期工事として、平成17年に着工して平成19年12月から供用開始をしております。そしてさらに平成22年着工した、平成25年、今年度ですね、2期工事が終わる予定でございます。

その中で管路のエリアなんですけども、平成22年3月、武雄都市計画、下水道計画の183ヘクタールを10アール増やしまして、この10アールというのは新武雄病院の4ヘクタールとワンダーランドの東側の6ヘクタールでございます。これで193ヘクタールということに変更しております。そしてまた、平成22年9月には事業認可区域32ヘクタールから、JR南側の44ヘクタールを増やしまして、全部で76ヘクタールに変更しております。そしてこの事業は、ただいま進められているところでございます。

そしてさらにですね、その年の12月には武雄市の汚水処理整備構想を見直して、当初624.5ヘクタールの計画を257ヘクタールに縮小、見直されてきております。

そこで質問に入りますが、見直し、変更等を行いながら——この下水道工事はですね、計画通りに進んでいくのかどうか、まずそのあたりをお聞きいたします。そして進捗率はいかなもんかですね、お聞きしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

森まちづくり部長

○森まちづくり部長〔登壇〕

平成24年度末におきまして、認可面積76ヘクタールに対しまして、整備面積42ヘクタールということで、進捗率は55%となっております。平成27年度の完了を目指しております。今順調に進んでるところであります。

○議長（杉原豊喜君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

今、進捗率が55%という説明を受けましたけど、現在の計画を、ちょっと説明したいと思います。

そしたらですね、武雄市公共下水道整備区画の257ヘクタールであります。この武雄浄化センターですね。これが、今回の事業認可区域の76ヘクタール。これが全て終わるのが、27

年度ということですが。現在、小楠、昭和、天神この付近を、あと残された45%が残っているということですので。そして次が、西エリアの24ヘクタール。これが新町竹下地区付近でございます。そして次は、北エリアの93ヘクタール。これは大体、八並、川良地区になるかと思えます。そしてここが、ワンダーランドの東側と南エリア。これが、昭和、天神地区ですね。これが31ヘクタール。そして東部側の東エリア、これが33ヘクタール。これら全て足したのが、257ヘクタールということですが、これが平成42年頃に整備が整うという計画でございます。

こういう状況で、今進めておられますけれども、この76ヘクタール、この赤ですね。ここが終わったところで、あとどこに移られる予定なのか、どういう計画をされているのか、お尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

森まちづくり部長

○森まちづくり部長〔登壇〕

平成28年度からの次期区域の決定を行うためには、現地の調査、あるいは協議申請等で、約1年半程度かかりますので、その平成26年度にはですね、次期整備計画、どこをやるかというふうなところですね、作業に入って、皆さん、議会のほうとも協議をしながら進めていきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

今、いろんな準備等もあるので、早めにかかりたいということなんですけれども。この赤のところは27年度ということですが、あと残りが大体、平成42年、約20年近くかかるわけなんですけれども。

末端部においてはですね、もうそこまで待てんと。むしろ、20年先まで生きとるのかどうかもわからんばいと、というような話すら聞こえるところもあります。そういったところですね、ぜひ市町村型ですね、戸別浄化槽へ転換も考えてはどうだろうか、ということですが。そういったことも含めてですね、見直しをお願いしたいと思うんですけれども市長いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

森まちづくり部長

○森まちづくり部長〔祭壇〕

現在、計画区域の中で、周辺部において、公共下水道、エリアを市町村設置型の浄化槽区域への見直しというふうなことですが、これにつきましては住民要望、費用対効果等をふまえて、早急に検討をしたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

はい。今後も、この76ヘクタールについてはですね、現在55%ということで27年度に、あと3年弱で完了するわけなんですけど、先ほど言ったように、できるだけ27年度も早めに、スピードアップしていただいて、末端のですね、そういった住民の声を十分に反映していただいてですね、戸別浄化槽の転換も視野に置いて考えてほしいと思うんですけど、市長、そのあたりどうでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

答弁申し上げます。これは法で定められた事業認可区域っていうことに関していうと、この見直しについては、さすがにやっぱりこれ、法で決められている期間がありますので、それはそれで法にのっとって、法の期間にのっとって、見直すっていうことが大前提。その中で、下水道マップありますよね。その色替えを——先ほど部長はそういう意味で申し上げたと思うんですが、その見直しについては早くやりたいと思います。実際、そういったご要望も、私にも直接——そして、議員さんもそうだと思いますし、うちの担当部にも来ていますので、それは市民目線に沿ってね、やっぱり見直すべきところは見直さなきゃいけない。

きょうは川良の区長さんがお見えなんですけども。例えば、川良だったら、ここの道路までは認可区域でできるんだけど、1本、道を外れればできませんっていうことになるよね、それは、ちょっとやっぱり市民感情からしてどうかなということもあります。ですので、法が許す範囲内でね、そこについては市民目線っていうことを十分にね、踏まえた上で見直しを進めていきたいというふうに思っています。

やっぱりですね、我々政治っていうのは、住民の要望にできるだけ答えるっていうのが、大前提だと思います。その一方で計画性というのも、もう1つ重要なんですね。これ、あんまりやると虫食い状態になって、今までの計画はなんだったんだということになりますので、そのバランスはよく議会と、よく相談の上ね、進めてまいりたいと、このように思っております。ですので、山口等議員さんにおかれても、また大所高所からね、またご指摘を賜ればありがたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

はい。そういうことで、よろしくお願いいたします。

次の質問に移らせていただきます。公共工事の電子入札及び電子納品、完成図書のですね、

電子納品についてでございます。

はじめに、電子入札についてでございます。武雄市は、どこよりも先にフェイスブック等を、IT関係の事業に取り組んでおられます。特に、タブレット授業も、一部ではまた学校で進んでおります。

しかし、公共工事の入札につきましては、まだ従来のですね、紙入札によって行われている状況です。武雄市——県内ではですね、既に、佐賀市と唐津市が導入をされておまして、業務の効率化が進んでおります。それで、今後武雄市として、電子入札システムの導入が考えておられるのか、そのあたりをお聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

やります。

○議長（杉原豊喜君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

はい。やるということですので、ちょっとですね、どういうふうな状況になるのかというのを……（発言する者あり）説明させていただきます。

電子入札のイメージといいますかね、市役所と業者——発注者と業者があるんですけど、これに電子入札システムとパソコン、インターネットを使ってですね、発注案件の掲載、そして指名入札等を発注者からやりまして、あとは指名通知、この広告等のダウンロードをやっていただきます。それをすべての業者の方にお知らせすると。それで業者の方が、また新たに返すということですね。それで、資料送付等をすべてインターネットで行いまして、提出書類、確認等を、開札など電子入札を使ってやるということです。

そして、電子入札システムのですね、導入した場合どういった効果があるかということなんです。コストの縮減が出来る。これは、会社にいながら、指名通知書の受領や対応ができ、移動コストですね、それと移動時間がかからないと。それと、ペーパーレスのため事務経費がかからないと。2つ目に、手続きの透明性、公平性がより高まる。それと3つ目に、発注者側の対応もスムーズにできる、というようなことになるかと思います。

それで電子入札のシステムで対応した場合ですね、この赤の部分のところはすべて、いながらできるということなんですけど。まず、入札公募ですね。それと指名通知書の発行、入札開札ですね。落札者の決定、入札結果発表ですね。それと、この契約はですね、役所のほうに行ってもらわなきゃいかんと思うんですけども、最後の契約結果の発表。こういったところがですね、ほとんど会社にいながら、事務所にいながらですね、できるというスタイルになってくるかと思います。こういったことで、メリットも多いと思うんで、再度、簡単に社

長……

〔市長「社長やないよ」〕

市長がですね、やりますと一言言われたんですけど、もう少しですね答弁よろしくお願ひします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

詳細の説明ありがとうございました。実はですね、資格指名審査委員会、私どもの資格指名審査委員会で、この議論っていうのは、熱心にされていて、最終的には電子入札システムを導入しようという結論に至る段階ではあったのを、きょう、等議員さんがこのように、後押しをしていただいて、本当に感謝申し上げたいと思います。

もう少しかいつまんで申し上げますと、一気に、A級、B級、C級全部っていうのはちょっとこれは無理なんで、例えば、まずB級以上で行うとか、A級以上で行うっていうふうにして、限定をした上で——これは、私はとても慎重な人間ですので、やっぱりこう徐々に試行的・段階的に進めて参りたいと思っています。その時に、また問題点とか課題が生ずれば、そこはまた改良していくということになりますので、まずは——多分、私の感じでは、B級以上だと思いますけれども、そこからまず始めたいと思っています。

どういうふうにするかっていうのは、インターフェース——やっぱり、入れやすい状況にあるとかっていうのは、これは黒岩幸生特別委員長のIT特別委員会でもね、ぜひご議論をしていただきたいと、思っていますので、よく議会と両輪になってね。やっぱりコストの縮減であるとか、やっぱり入札のしやすさであるとかっていうのは、行政が勝手に単独に決めるような話ではありませんので、よくこれは議会と、特に黒岩幸生特別委員長と相談をしていきたいと、このように思っていますので、なるべく早く（発言する者あり）——平野議員さん、ちょっと私語は慎んでください。聞こえますよ。

○議長（杉原豊喜君）

静かに。

○樋渡市長（続）

ちょっと平野議員さん、ルールは守りましょうよ。僕、全然あなたのこと今、言っていないじゃないですか。私語が物すごく聞こえるんですよ。

○議長（杉原豊喜君）

私語を慎んでください。

○樋渡市長（続）

ですので、何が「ですので」か、よくわかりませんが、そういうことで、進めてまいりたいと、このように考えております。以上です。

○議長（杉原豊喜君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

はい。現在ですね、国、県等では、コアシステムというシステムを、導入されたところが多いようでございます。このあたりも含めてですね、是非ご検討よろしく申し上げます。

では次の、完成図書、電子納品についてやります。電子納品といえば、各業務の完成図書を、データベースで納品することをいうわけなんです。それと電子データとは、ガイドラインに基づいて、作成された電子納品の対象データを納品するということをいうわけなんです。

現在、佐賀県ではですね、佐賀市が今年から、平成25年度から、段階的に、今言われた、特A、Aクラスを、順次、進められております。それで、これも武雄市として、今後運用する計画があるのかどうか、まず、市長にお伺いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

この件についても、一部、細々ではありますけれども、やっております。ですので、これも、段階的・試行的にまずA級等からやっていきたいと思っております。これをやることによって最大のメリットは、経費削減もそうなんですけど、検索が非常に容易になると。こんな分厚くなるんですよ。これをいちいちですね、見ていくっていうのは非常に大変なんで、例えば特定の言葉を入れて、検索をするということになると、これは黒岩委員長も言ってましたけども、それこそ3D検索なんですよ。ですので、これも含めて、IT特別委員会でね、よく議論をしていただいて、私どもとすれば、これも早めにやっていきたいと思っております。これをやることによって、これ質問でも出ましたけれども、電子政府ですよ。これは、住民の利便性、コストの低減っていうのが、一気にはかられると思いますし、こんな分厚いペーパーがあって、これ誰も読まない。あるいは、保管とか保存とか考えた場合に、これは私はずいぶん、入札よりもこっちのほうが、僕は大事だと思っておりますので、入札と平行して、完成図書の電子納品については、積極的に進めてまいりたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

佐賀市が、今年度からということで、今言いましたけど、今年度はS A級っていいですか、特A級ですね、そういったところがされて、また来年度はA級ということで、段階的に4年くらいかけてやっていくようなこととございます。

だから、武雄市としても、当初、試行的に2件ないし3件とか、そういったことで始めら

れてもいいかと思えます。それで、今市長が言われましたけど、本当に、どういったメリットがあるかということなんですけど。（「よかばい」と呼ぶ者あり）よかですか。そういうことで、一元的に書類整理ができてですね、素早く検索ができるっていうことが、まず大事だと思えます。

それと、災害への対応なんかもですね、これまでと、これから、ということであらわしてまずけども。これまでは、どうしても、あの、図面等を探すのに時間がかかった、ということなんです。それが、電子化することによって、必要な図面が時間的にとられることなく、すぐ提供できると。そして、情報共有システムでバックアップができると。こういったことで、非常に便利になってくるかと思えます。特に、これからはですね、災害工事とか、いろんな維持工事が出てくるかと思うんですよね。そういったところに、これはいつごろ、どういうことをしたっていうのを、すぐ検索できて、非常に、便利になってくるかと思えますので、ぜひ進めてほしいと思えます。

〔市長「はい、します」〕

そして、もう1つ、あれなんですけど、非常に建設業はですね、若者の雇用が厳しいです。そういったところですね、こういった若者の技術といいますか、こういうノウハウを、ぜひうまく利用していただいて、若者に期待できるような建設業になるようになっていきたいと思えますので、ぜひこういったこと、取り組んでいってほしいと思えます。

そしたら、次の道路行政について、質問させていただきます。まず道路橋の維持管理について、でございます。一般的には、2メートル以上を橋梁というわけなんですけど、その2メートル以上の橋梁が、武雄市には、なんと540近くの橋があるということです。そんな中で、我々、生活に関するような、生活に必要な、地域と地域を結ぶ橋は、大体150橋あるということでございます。その大半がコンクリートでできとるわけなんですけど、コンクリートの耐久性・寿命は、大体50年ということをいわれております。そんな中で、30年以上たったような橋がどれくらいあるのか、そういったことをまずお聞きしたいと思えます。

○議長（杉原豊喜君）

森まちづくり部長

○森まちづくり部長〔登壇〕

議員さんおっしゃられます、橋の点検というふうなことであるかと思えますけれども、点検した橋梁につきましては139橋で、そのうち50年以上経過した橋が3橋あります。それから40年から49年経過した橋が29橋。それから30年から39年で39橋となっております、30年以上経過した橋は71橋にのぼりまして、約半分が30年以上というふうなことになっておりまして、着実に老朽化が進む傾向にあるのではないかと、というふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

橋の状況調査も去年、その前くらいにもされたと思うんですけど。どのような状況が見られたのかですね、お尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

森まちづくり部長

○森まちづくり部長〔登壇〕

点検した橋につきましては、橋の長さが15メートル以上、それから15メートル以下でもですね、緊急の輸送路、あるいは国道・県道への接続している道路、あるいは近隣に重要な施設がある道路などを139橋、調査をしました。

特に落下の恐れがある橋や、通行止めをすぐにしなくてはいけないというふうな橋は見られなかったんですけども、ひび割れや一部剥離というふうなところの損傷がある橋が見られました。20年後の平成45年には50年を経過する橋が急激に増加するわけですけども、今後、補修や架け替えに費用が大きくなるというふうなことが懸念されるというふうなことです。

○議長（杉原豊喜君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

コンクリート橋がほとんどでございます。そういったところで、部分的な鉄筋が見れるような状態とか、コンクリートの劣化、そういったところがあるかと思うんですけども。

これはですね、地元の市道の橋です。これは本当は10メートルもございません。しかしここは恐らくもう50年以上、60年くらい経つかもわかりませんが、ちょっと管理簿がないもんですから。ここをちょっと確認したところですね、鉄筋が露出している状態です。そしてコンクリートもですね、こんなに剥がれている状態。こういったところが、我々が通っている身近な橋にもたくさん見られます。

そして、これは——近くのあれじゃないんですけど、こういった状態のですね、鉄筋が露出して錆びているような状況。これも床盤が剥がれ落ちて鉄筋が丸見えというようなところが、これから先50年近くなればですね、出てくるということになるかと思えます。

それで——このような状態の中で、県は今年度から10年ぐらいの計画で約15億5,000万を想定して、長寿命化修繕計画というのを策定して、順次進めていくということでございますが、武雄市としてもこういうふうな長寿命化修繕計画が立てられておるのか、そのあたりのところをお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

森まちづくり部長

○森まちづくり部長〔登壇〕

よりよい橋梁の維持管理をしていくためにはですね、限られた——財源、ある中で効率的に橋を維持していかなければならない、というふうに思っております、損傷が大きくなる前に、予防的な対策をやる必要があるというふうに思っております。

そういうことで、橋の寿命を延ばして将来的な財政負担の低減、及び道路交通の安全確保を図るためにはですね、橋の大小の大きさにもよりますが、緊急度の高い橋から国の補助事業等を利用しながら、年間約3橋から5橋程度をですね補修していきたいというふうに計画を立てておるところであります。

○議長（杉原豊喜君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

橋梁にはですね、水道管とかN T T管、こういったところのライフラインが共架されているところがあります。そんな状況で、橋がかかっても通行できない、というようなことになったのでは、重量車両を迂回路させるとか、そういったことで地域住民に非常に多大な支障が出てくるかと思っております。このあたり十分維持管理をですね、計画的に進めていただくようにぜひお願いしたいと思いますけど、市長そのあたりどうでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

しっかり進めていきたいとは思いますが。その中で、今例えば、新武雄病院の関係でね、また他日質問があろうかと思っておりますけども、8,500万円の税収が年間きております。さまざまところから今、一定ちょっと税収が他のところはひどく落ち込んでいますけれども、うちは増えているとは言いがたいまでも、基本的にプールできるのがあります。今、借金減らしをどんどんやってきまして、今までね。例えば地方債残高も、今400億あったのが基金充当分まで含めると100億減らしました。

こんな——私、市長になったときに、こんな借金あらしとは思っていませんでしたから。ですので、山内・北方はすごくよくやっていたんですね。その中で——借金減らしをやっていたんですけども、一定ちょっとこのペースを少し緩めようと思っております。

そこで例えば、福祉であるとか、子育てであるとか。あるいは、長寿命化修繕計画ですよ。これに多額のやっぱり、お金が必要となりますので、どうせやるのであれば——例えば10年間でやると。

やることが決まっていれば、それをもう5年間でやってしましましょう、というので、集中化計画という意味も込めてね、これはきっちりやっていく必要があるだろうと。やっぱりね、事故とかがあってから——いくら修繕とか維持といってもね、それは意味がないんですね。ですので、これはそういう——蓋然性が高いというものについては、これもよく議会と

相談をいたしますけれども。そういう意味では、長寿命化修繕計画については、集中プランという形でね、ぜひつくっていきなというふうに思っております。

ただ、これは市民の皆さんたちも議員の皆さんたちもぜひ、ご理解をいただきたいのは、これを集中化することによると、他やっぱりね、手薄になる部分というのがやっぱり出るんですよ。あれもこれもというのは無理です。あれかこれかになりますので、そこは市民の皆さん達もぜひね、こういった議論には加わってほしいなというふうに思っております。

ですので、樋渡市政の根幹は、弱い人の立場にやっぱりきちんと立って、しかも安全・安心ということが絶対にこれは大事ですので、そういう意味からすると福祉・子育て、この長寿命化計画というのは、それに並ぶ僕は、大切なものだというふうに認識をしております。

○議長（杉原豊喜君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

はい、よろしくお願いします。

次に、都市計画の市街地の整備についてでございます。市道、中野御船山線の西浦交差点より、北側をのぞんだところなんですけれども。西浦通りの市道、中野御船山線については、中町通りのここから北側はですね、凍結というような話も聞いたような気がします。

現在その先が、非常に狭くなっております。ちょうど新玉さんがあったとこまではですね、広くなるとるんですが、それから先、旧公会堂と言いますか、その手前の大体七、八十メートルくらいが、非常に狭くなっておりましてですね。そこには病院とか旅館、商店が立ち並んでおります。現在、武雄小学校の工事も行われておりますけれども、ここをぜひ継続してですね、仕事を進めてほしいなということを思いますけれども、どうでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

森まちづくり部長

○森まちづくり部長〔登壇〕

中野御船山線につきましては議員のおっしゃるとおりに、今、区画整理等の接点である西浦交差点の早期完成を目指して、今までやってきましたけれども。その取り付けとして、中町通りまで、開通を第一ということで考えてまいりました。今年度中には完成をする見込みというふうになっておりますけれども、議員のおっしゃられたとおりに、先のほうが狭くなっておりまして、交通量も多く、急に狭くなって、離合も難しい状態というふうなことでありまして、引き続き事業を実施していきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

この路線は、本来なら私が首長として言うような重要な路線なんですね。ただし、私こ

この住人なんです。ちょっと言いにくくてですね。ですけれども、これ何で——さつき部長答弁をちょっと補足すると、中町のところまでというのは、住民合意がきちんととれていて。その先の部分については、その手前よりもさらに多数の地権者さんがおられますので、その合意をちゃんと取らなきゃいけないだろうということで、その前段階として西浦通りの中町の手前のところまでをした、ということが前提なんです。ですので凍結ということは全然思っていないですよ。

要するに、これは財源の問題があります。それと意思決定の段階がありますので、樋渡市政は一気にやるということはありません。そんな乱暴なことはしません。したことはありません。

ですので、やっぱり段階を踏んで、市民にご納得、理解を頂いた上で進めていくというのが、樋渡市政の根幹ですので、そういうことをしていきたいというふうに思っております。

ですので、やっぱりもう少し時間が欲しい、ということで担当の事務方から聞いていますし、私がこれに関してね、一住民としてよく聞かれるんですよ。「あんた、住んどろうもん」って言われますけど、それについて一切のコメントは、私はしません。あくまでも一住民として、決まったことにきちんと従うという姿勢は、是非ね、貫いてまいりたいと思っております。

いずれにしても、ここが渋滞をしているということについては、その問題についてはね、これは市長としても認識をしておりますので、財源の確保をきちんと担保しながら、そんなに急にはできないかもしれませんが、順々に進めていく必要があるだろうなど。これもしっかりうちの事務方と地区の皆さんたちで、やっぱり膝を交えてね、お話をさせていただければありがたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

ぜひですね、継続して交渉を進めて交通の緩和をですね、目指してほしいと思います。

次に市道永松川良線でございます。駅ですね、東側の市道永松川良線でございますが、ちょっと高架下で、今止まっているような状態です。奥のほうに南口になるんですけど、このところに駐車場等もあってですね、ここで通行ができないかと。今止まったような状態なんですけど。ここをオープンにすることによってですね、非常に便利になるんじゃないかということです。

裏のほうから見たところなんですけども、このブロック積み等があつてですね、非常に見通しが今のところ悪うございます。ここをですね、JRとか関係者、警察等とよく協議されて、ぜひここを通すような方向で考えていただけないかということです。よろしく願います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

この答弁に入ります前に。これは担当部長から答弁をいただきますけど、手前の部分のオレンジとピンクの広い歩道があるじゃないですか。あそこ皆さん、お気づきになりませんか。ポールが乱立しているんですよ。あれで、逆に歩きにくい方とか、景観から見て、とてもこれは観光都市としての体をなしていないって。さっき「どこがしようですか」と部長に聞いたら、自分たちがやっていますって。どうもすみませんです。全て私の責任です。私は人のせいにはしません。

ただ、事務方とも話をしましたけれども、車が入ってくると。入ってきて、そのまま歩道に置くという人たちもいますので、現に。マナーを守れない大人の人もいますので、これについての対応は考えたいと思います。

ですが、これ結構高いんですよ。僕はあそこ、このごろ毎朝ランニングしてますので、これくらい高いんですよ。それがもうダーッと稲穂のようにね。稲穂が絶対ましですよ。です。それはちょっと、いかがなものかなと思いますので、これは早急に見直しを図りたいと思っています。

そして、これは多くの方々が見られていますけれども、絶対あそこには止めないようにしてほしいなということは思っていますので、これは私からの、ぜひお願いにしたいと思います。

すみません。この件に関しては、部長のほうから答弁をいただきます。

○議長（杉原豊喜君）

森まちづくり部長

○森まちづくり部長〔登壇〕

永松川良線の高架下の解放についてですけれども、この分につきましては、今現在、完成形ではありません。この分につきましては、甘久武雄線に交差点が必要になりますし、今、モニターで見られるところのように、市道と道路の高さが3メートル近く、高低差があります。こういった中で、公安委員会と協議した結果ですね、今の状態ではだめだというふうなことでなっていますので、これがどうすれば早急に解放できるか、再度、公安委員会と協議をしていきたいというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

北側を見たところなんですけども、そののところもですね、今のところ、どう進んでいくのかなというのがあるんですけど、このあたりについて、どのように進めていく予定なのか、

お願いします。

○議長（杉原豊喜君）

森まちづくり部長

○森まちづくり部長〔登壇〕

永松川良線の駅の北側の所だと思いますけれども、南口広場が、新幹線が開通する3年前の平成31年に完成をするわけですけれども、北側の分につきましては、区画整理地内の道路整備が、27年ごろに想定されております——計画しておりますので、それに合わせたところで、着手をしていきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

27年度ということで、できるだけスピードをあげて進めてほしいと思います。

次に公園等の管理について、植栽の管理についてでございます。市の白岩公園、丸山公園等の、自然木の植栽による中高木、または低木を利用して、公園がなされてるわけなんですけれども、長年経過すると木も大きくなって、非常に近隣の方の土地とか家に被害を与えるということが見当たるようでございます。こんな状態ですよね。こういったところで、非常に伐採等もするような状態になってくるかと思うんですけれども、このあたりの対策は、市としてどのように考えておられるのか、お尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

単に大きくなったものについてですね、私たちが予算を入れてやるということは、基本的にはないんですね、ありません。これをやると、全部行政負担、それはすなわち、市民の皆さんの負担が膨らむことになりますので、これはいろんな経緯があろうかと思っておりますけれども、それについて行政がタッチするというのは、原則、少なくとも私が考えるかぎりありません。

ただ一方で、のり面。例えば丸山公園がそうなんですけれども、のり面に木があって、それがだんだん位置がずれてきて、のり面から斜めに木がさして、それがかなり大木になっている分については、これはやっぱり行政が対応しなきゃいけないと思うんですね。というのも、梅雨が始まると——もう今、雨が降り始めてますけれども、議員ご案内のとおり、のり面崩壊の——今、特に劣化していますので、そうなったときに二次災害、三次災害になる可能性があるんですね。そういったものについては、事の経緯は別にして、市民の安全、安心を守る立場から、早急にやる必要があると思っております。

これは、議会にかけるとまもない場合があるんですよ。特に梅雨前。これも議会とよく

相談させていただきますが、我々が今、手元に持っている予算を流用させていただいて、早急にしていきたいと思っています。

ですので、これ大事な問題で、あえて整理をして言うと、日々の生活の範囲内のものについて、行政が絡んでいくことはないです。ですが、先ほど申したように、市民の安全、安心、生命、財産にかかわる、例えばのり面崩壊が予期されるところに木があるとかっていう部分については、これはやっていく必要があるだろうと思っていますので、そういう意味で、分けて、やっぱりここは整備をする必要があるだろうというふうに認識しております。

○議長（杉原豊喜君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

よろしくをお願いします。

そしたら次に、公園等の遊具の管理についてでございます。先日、新聞に載ったわけなんですけど、県内で、都市公園のブランコのチェーンが切れて、遊んでいた男の子が手首を骨折したという事故が発生して、市が治療費と慰謝料を支払ったということが新聞に載っております。全国的にも遊具の劣化による事故等が問題になってはいますが、遊具は公園だけでなく、保育園、小学校等にもございます。こういったところで武雄市としては、どのような点検、どのような管理をされているのか、お尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

森まちづくり部長

○森まちづくり部長〔登壇〕

議員のおっしゃるとおりに、遊具の故障や劣化等につきましては、大きな被害になるというふうに認識はしていますので、市が管理しております公園が約15箇所ありますけれども、この分につきましては、月1回、職員による目視、あるいは打音検査等を行ってるところであります。それでも、職員だけの検査では、なかなか専門的な知識を持ち合わせておりませんので、100%回避できるものではないというふうに思っています。早急にですね、専門家の意見も取り入れながらですね、検査を実施して安全管理に努めていきたいというふうに思っています。どうしても修繕ができないというようなところにつきましては、撤去も考えざるを得ないかというふうに思っております。

保育所につきましては、各園の点検マニュアルに基づき、毎月、目視や打音検査により検査をしております。県の指導監査において、毎年点検後の確認を受け、安全管理に努めているというふうなことであります。学校につきましては、月に1回、遊具の目視点検を各校で実施しております。専門家による総合点検を3年に1回実施して、不具合箇所については、随時補修で対応しているというふうなことであります。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私が高槻市の市長公室長時代に不幸な事件がおきまして、遊具で遊んでいた小学生のお子さんが、指が切断されたということがあって、これ担当は私でしたので、「全部撤去せい」ということで、撤去を進めていきました。これについては賛否両論が実際ありました、高槻市の議会の中でも。

ですが、やっぱりね、事が起こってからじゃ、これ遅いんですよ。ですので、物凄い批判を浴びましたけれども、市長が私に任せるとおっしゃってくださったので、強行に進めていきました。その結果どうということが、私が去ったあとにできたかということ、これも申し送りと言ってきましたけれども、安全性に担保した遊具については、きちんと置くべきところに置きましょうと。

これは丸山公園だと思いますけれども、やっぱり目が届かないんですよ。どんなに点検してもね。しかも使っている子どもたちが、少なくとも私がここに行ったときにはほとんど、これで遊んでいるところ見たことないですので、そういう意味で言うと、使う可能性が高いところに遊具を集中させようと思います。そのかわり、安全とか安心とかきちんと意識した上で、最新鋭の遊具をちゃんと置くと。

その結果、「誰も使いよらんぞ、ほとんど」という遊具について、あるいは老朽化が進みすぎている遊具等については、撤去の方針で臨みたいと思います。そうしないとね、本当に事があってからじゃ遅いんですよ。これは、議員の皆さんたちもご理解されると思いますので、そういうメリハリをつけた——僕は遊具を否定するつもりはありません。ありませんので、メリハリをつけた遊具設置というのを、ぜひ議会と相談しながらしていきたいなど、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

ぜひ子どもたちが安心して遊べるような施設になるように、今後も点検を十分されて、もし異常等があったときは、速やかな対応をして、事故等が発生しないように、ぜひよろしくお願いします。

そしたら次の、4番目の九州オルレについてでございます。皆さまご存じかもわかりませんが、オルレというのは韓国済州島の方言で、「家に帰る細い道」という意味であるそうです。九州オルレは全部で8コースあるわけなんですけども、その8コースの中で、武雄コースが第2位に選ばれたということで、先日、佐賀新聞に掲載されました。この武雄コースの魅力が何なのか、担当の方にお伺いします。

○議長（杉原豊喜君）

溝上営業部長

○溝上営業部長〔登壇〕

九州オルレ武雄コースの魅力につきましては、実際コースを歩かれた韓国の方の感想等を含めまして、主に3点ございます。

まず1点目は、九州の玄関口であります、福岡博多からのアクセスのよさです。韓国からは大半の人が福岡空港、あるいは港ですね。福岡港から入国されます。

2点目につきましては、オルレのスタート地点が、JR武雄温泉駅ということで、大変わかりやすく、しかもゴール地点に魅力ある温泉がある。これが2点目です。

3点目は、市街地から近いところに四季折々の自然がありまして、武雄コースは町中あり、山岳コースありということで、コースが変化に富んでいるということで、この3点が挙げられるかと思えます。

○議長（杉原豊喜君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

武雄コースがオープンしたのは、昨年3月であります。これまで武雄コースを歩いた方が大体どれくらいおられるのか。また、オルレを通じて宿泊された方がどれくらいおられるのか、お尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

溝上営業部長

○溝上営業部長〔登壇〕

（モニター使用）グラフを用意しておりますので、まずグラフをごらんいただきたいと思います。

九州オルレ8コースのコース別の訪問者の実績を表示しております。この数字につきましては、九州観光推進機構が取りまとめまして、先月プレスリリースされたもので、期間につきましては、昨年の3月から今年の3月まで、約1年間の数字でございます。ごらんの通り、武雄コースにつきましては、奥豊後コースについて、第2位でございます。実際武雄コースを歩かれた人数につきましては、日本人が2,411人。韓国人が2,755人。合わせて5,166人の方が訪問をされております。また、宿泊者につきましては、市内の旅館、ホテル等に聞き取りを行いました結果、約2,500名の方の宿泊があったそうです。そのほとんどが、韓国の方というふうに聞いております。以上です。

○議長（杉原豊喜君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

先日ですね、6月2日に九州オルレウォーキングフェスティバルというのが、武雄コース

を活用して開催されました。この日はちょうど楼門朝市、また、うめ〜ランド、それとほたる祭りを含めて、1日楽しむような開催がされたわけなんですけど、とてもいい企画だったと思います。

それで先日、私も武雄コース、14.5キロメートルなんですけど、歩いて参りました。非常に武雄神社の付近の竹林といいますか、そういったところの冷やかさを感じたり、また保養村から上がったところの景色なんか、非常にいいもんだなというのを感じたところがございます。武雄神社の裏の大楠の手前の竹林のところ。これが保養村から見たところの景色です。これは武雄町内が一望できるんですけど、朝日町まできれいに見えるというところで、非常に見晴らしがいいところでございます。

それで、この上がったところに、案内板とか置かれなかなというところ。そういうのを見ながら、あそこがどこよとかいうところで、新たな発見もできるんじゃないかなと思っております。

それと、気づいたことは、ゴールが武雄温泉駅なんですけど、ゴールしたところに足湯等があったら、非常に足の疲れも一時的に癒やされるんじゃないかなと思いますけど、こういった足湯の設置といいますか、そういったことができないかどうか。また温泉等に入られる方もおられると思うんですけど、そこまで時間がなくて、足でもゆっくりほぐしたいというようなことであれば、そういったことで、足湯の設置等ができないかどうか、そのあたりをお聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

部分的に、ちょっと私からお答えしたいと思います。

案内板は、確かにそうですね。いろんなところに行ったときに、例えば濟州島のオルレに、私も――あれ20キロメートルくらいあったのかな。参加したときに、眺めというか歴史的な――例えば、朝鮮戦争のときの塹壕であったりしたときに、韓国語、英語、日本語でちゃんと説明があるんですよね。だから、眺めもそうなんですけれども、例えば、これがどういう意味づけかというのは、私たちが知らないときがやっぱりあるんですよね。ですので、少なくとも3カ国語です。英語、韓国語、まあ日本語はもちろんですけれども、できれば中国語も含めてですね、それは必要としてあるなと思いました。それは質問を承って思いました。

これはオルレの担当を含めて、よく議論をして、景観に邪魔にならないようにですね、そういう設置を、ぜひしてまいりたいと思います。御指摘、感謝します。

それと足湯の問題なんですけど、先の議会でもお答えしましたけれども、保養村のところから泉源がありますので、そこをずっと駅の南のほうまで通していくと。さらに延長するこ

とも考えられると思うんですけども、これ行政がやると、また沸かさなきゃいけないわけですね。すごくお金がかかりますので、ぜひ山口等議員さん、やってくれないでしょうか。

これがビジネスになるということであって、なれば——これは等さんに限りませんが、ぜひこれは参加してほしいなというふうに思っています。この要望、結構あるんですよ。足湯だったり、手——今、手湯って言うんですか、指湯と言うんですか、というものもありますので。等議員さん、どうでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

ぜひ、本当に、足湯はあった方がいいかなと、私も、実際歩いて感じたもんですから、ぜひ設置できればいいなと思います。

この武雄コースも、もっと魅力あるコースにしていきたいということなんですけども、今後、どのようなことを考えておられるのか。またですね、この武雄コースが、南コースと、仮にすれば、柏岳を活用したですね、武雄北コース、これは仮称なんですけども——ことができないかということです。

特に柏岳付近は、非常に名所もたくさんあります。特に円応寺の桜。4月は、たくさんの方が見えて——、素晴らしいアーチ型を描いております。内ノ子のため池付近も、非常に紅葉等もきれいで、素晴らしいところです。また、柏岳の展望台から見たところですね、今度は、逆に、北のほうから南を見るというふうな眺めでですね、塩田鹿島方面が十分に見えるし。また、北方橋方面も、十分に見渡せるというようなことで、今の保養村から見た感じと全然違って、北からと南からとですね、武雄を見るというようなことで、非常にいいかと思えます。

特に、オルレで歩いて感じたことなんですけども、イノシシ等で被害等があるところがあるんですが、オルレで人が歩けば、イノシシもほとんど遠ざかって、イノシシの形跡とか、通ったところなんかを全然見られないように、イノシシの、そういった対策にもなるかと思うので。今ですね、柏岳も、イノシシ対策で悩んでおります。そういったところで、北コースと言いますか、そういったところも考えられて、イノシシ対策にもつなげられたらな、と思っております。このあたりのところ、どうでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

先ほど、営業部長からお許しをいただきましたので、これは武雄北コースとして、申請をします。柏岳ね。申請をしますが、ただ、いろんな条件がありまして、世界遺産と一緒になんです。いろんな条件があって、これが認定されるかどうかというのは、我々が及ぶ範囲

じゃないんですけども、申請はしたいと思います。ぜひ、期待をされずに。きょう、川良の区長もいらっしゃいますけど、これは絶対期待しちゃいかんですよ。まあ、でも申請はしたいと思います。やっぱり、オリンピックもそうですけど、参加精神が第一ですので——すみませんでした、したいと思います。

先ほどね、ここで政策協議をやっていましたけれども——1つ考えられるのは、川良は、すごくいいですよ。こういう歩くのにとっても、すごくいいところがありまして。川良だけじゃないですけど、上西山ですかね、あっちのほうにつながる富津林道であったり、この柏岳の遊歩道であったり。あといくつか、実際に歩かれています方がいます。

特に富津林道は、前の議会で申し上げたと思いますけれども、結構、外国人の方が多んですよ。あそこで、例えば、トライアスロンの練習をされたりとか、走ったりとか。私も走りました、富津林道。もう二度と走りません、急すぎて。ですが、そういう——何て言うんですかね、散策であるとか、あそこ貴重な植物があるんですよ。それを遠くから愛でるので、写真を持たれている方々も、多数いらっしゃいますので。そういう目的で、また、僕、行こうと思います。あそこは、走るつちゅうのは、ちょっと、しんどいので。

例えば、柏岳の北部のコースであったり、黒髪山にもありますし、北方にも、そういうコースがあります、実際。これを、地元の人しか知らないものというのは、あまりにも、もったいないのです。

今、武雄市は、食べるところ、レストラン、食堂を出してますけど、どこかのタイミングで、こういう歩く、あるいは走る、あるいは自転車で行くような健康、あるいは、眺望もそうなんですけど、そういうコースを、市報で紹介をしていきたいなと思っています。それが、市民の皆さんたちの誇りに、僕は、つながっていくと思うし、実際に歩いてみると、「じゃあ、これは自分たちで修繕しよう」とかっていうふうに、僕は、なると思うんですよ。もちろん、オルレ——今のコースは、すごく有名になりましたけれども、そのオルレに続くコースを、やっぱり、僕らがどんどん紹介をしていくと。そういう意味で、この議会で、こういうふうに紹介してくださるといのは、非常にありがたいですよ。IT特別委員会が、こういうモニター設置ということをされて、それを存分に、こういうふうに活用されているということに関しても、僕は敬意を表したいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

私は先月、オルレの発祥地であります済州島に、皆さんと行かせていただきました。

気付いたことなんですけど、ここは空き家らしいです、元はですね。空き家を活用したカフェ。こういったところも、途中ありまして、これはアーケード街の市場なんですけど、こういった道路の真ん中に水路を設けて——これは鯉だと思わんですけど、こういった癒やし

の空間も、よかったなといったところです。この赤いのですね——。こういったところも、非常に癒やしの空間になったところです。

また、先月の 29 日ですか、九州オルレ意見交換会というのが開催されまして、市長も出席されましたけど、九州各地からオルレコースの紹介がありました。どこも、一生懸命PRをされていましたけれども。

韓国との関係は、政治的に、いろんな問題がありますけど、九州オルレを推進いただいております九州観光推進機構、こういった方の努力によって、日韓の交流が、より深まっていくんじゃないかなと思っております。

このことが、武雄市にとっても、素晴らしいことになってくるかと思えますけど。出席された市長のほうから、どう思われたか、お尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

溝上部長を初めとして、うちの秋月であったり、大野であったりとか。今度、新しく韓国語の達人である中村であったりとか。横浜から帰ってきた松尾千春であるとか、本当にこれ一生懸命やっているんですよ。

特に、大野なんかは、自分の職員を言うのも、ちょっと恐縮なんですけど、今、日本語以上に韓国語が上手です。しっかり練習しているんですよ。こういう見えないところで、職員が、本当にこう、努力しているっていうのは、本当に、僕は誇りに思います。その結果、九州で今2位ということになっていると思うんですよ。やっぱり僕らは、何て言うんですかね——行政が一生懸命やるっていうことは、もちろんですけども、あとは、周りの市民の方々が、韓国語を学んでいただいたり、あるいは英語を学ぶことによって、よりフレンドリーになってほしいと。

これは、前も申しあげたかも知れませんが、行かれてわかったと思うんですけど、済州島には、かないません。世界遺産には。やっぱり、あの雄大な風景であるとかね、これは適わないので。

じゃあ、私たちは、どうやって勝負するかと。済州島の行った人たちが、武雄のほうが上だと言うんですよ。まあ、上田議員という方もいらっしゃいますけど——間違えました、「上だ」というふうに、おっしゃるんですよ。それは、なぜかと言うと、人なんですよ、人。

例えば、永島で歩いているときに、冬に大根が干してあった。そしたら、韓国の方が、そこに大根を干しているおばちゃんに話したときに、全然通じないわけですよ。こっちは佐賀弁、あっちは韓国語。通じないわけですよ。ですが、お友達になっているんですよ。

なぜかと言うと、両方主婦で、大根を干すという風習は一緒なんです。かたや漬け物になり、かたやキムチになるっていうので、物すごく仲よくなっているんですよ。その言った

方ってというのは、実は、非常に影響力のある方で、本当に武雄の人たちは素晴らしいというのを、いろんなところで言いまくっているんですよね。そうすると、それが口コミになって、またやって来ているんですよ。ですので、その主婦の方のおかげで、「武雄の人たちは、みんないい人」って。みんないい人ですよ、武雄の人たちは、こっちも。

そういうことですので、私とすれば済州島とか、他の九州オルレにない魅力をきちんと出していくのは、人だと思えます。観光も、人だと思えますので。それを、溝上部長を始めとして、もっと推し進めていく必要があるだろうと思っていますし、先ほど申し上げたように、認定されるかどうかは別にしても、ちゃんと、コースをつくっていくということも大事だということに思っております。がんばります。

○議長（杉原豊喜君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

まだですね、地元では、あまりなじみのない九州オルレかもわかりませんが、この武雄コースを、多くの方に知っていただいていますね、自然に触れあい、季節の草花にも目を奪われてですね、健康的な、健康維持にも役に立てばなと思っています。これから先も、武雄のよさを、ぜひ、わかってほしいなというところで、先ほど言われました、ぜひ北コースの検討をよろしくお願いします。

それでは、最後の質問になりますけど、武雄保育所のその後についてであります。

武雄保育所については、前回も質問させていただきましたけど、3月末に、民間より運営していただく方を公募されております。その後の経過について、また今後のスケジュールについて、どのようになっているのか、お尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

蒲原こども部長

○蒲原こども部長〔登壇〕

その後の経過、スケジュール等について、ということでございますけれども、武雄保育所の運営事業者を公募いたしましたところ、4事業者からのお申し込みがございました。

4月に、武雄保育所運営事業者選定委員会を設置いたしまして、移管先の候補者を選定する審議を行っているところでございます。7月下旬頃までには、選定結果の報告を受けまして、引き受け事業者の決定をしていきたいというふうに思っております。

それから、その後になりますけれども、武雄保育所の引き継ぎに関する協定書などの、移管のための手続き等に入ることになります。

そして、来年の4月より、引き受け事業者が武雄保育所の運営をスタートするという事になっていきます。

○議長（杉原豊喜君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

現在ですね、4事業者の中から選定中ということでございますが、協定を交わして、来年度、26年度から、委託をお願いするという事なんですけど。

場所については、武雄市のほうが、無償貸与してやるということなんですけど、どこか候補地等を考えておられるのかどうか、お尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

蒲原こども部長

○蒲原こども部長〔登壇〕

武雄保育所の移転、新築にあたりましては、用地の確保が、一番の課題でございます。

今後、引き受け事業者と協議をいたしまして、候補地の選定を行っていききたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

選定してということなんですけど、武雄小学校校区の利便性を考慮してですね、予定では、聞きますと、1年間ぐらいで、だいたい建設期間になるかと思うんですけども。早めに、いろんな調査をしていただいて、目標の27年度、新園舎開園に努力をしてほしいと思います。

また、病後児保育と言いますか、そういった特別保育にも、現在武雄市にはなくて、嬉野市、または江北町に委託している状況です。このようなところも、ぜひ近くの病院等にも働きかけてですね、お願いしたいと思うのですが、このあたりのところはどうか。

○議長（杉原豊喜君）

蒲原こども部長

○蒲原こども部長〔登壇〕

病後児保育園につきましては、今、議員さん、おっしゃられましたとおり、現在、嬉野市と江北町で共同設置をしておりますが、市内での開設を目指したいというふうに考えております。

病後児保育は、看護師と保育士の配置が、必要でございます。病院や保育所に併設するという場合が多いのは、そのためでございます。補助金等により運営をされております。

そのような選択肢を念頭に、模索をしていきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ちょっと、補足したいと思います。

これは非常に重要な話で、市民ニーズも高いので、これはぜひやりたいと思っているんですけど、でも行政がまる抱えというのはちょっとあり得ないんですね。これは医師の配置であるとか、先ほど部長が答弁したように、看護師の配置が必要ですので、ぜひやりたいって思っている方は、ぜひ参加をしてほしいと思います。これも部長から答弁がありましたように、じゃあこれは民間の方々がされてペイ出来るかというのと、そんな甘い話じゃないんですよ。ですので、これは、例えば看護師だったり保育士だったりの加配であるとか、これは他の自治体でもやっています。あるいは補助金であったりとか。補助金を出すことによって、市民の、福祉の維持向上に直結する話ですので、ぜひ1回、そういう説明会の場を設けたいと思います。クローズした説明会の場を設けましてね、そこでなんとかできないだろうかというのを、これはこっちからお願いベースになろうかと思っておりますので、そういう説明会もする必要もあるだろうと思っています。

いずれにしても、これはぜひやりたい、やりたいじゃなくて、やらなきゃいけないことだと思っています。やっぱり女性が社会に、なるべく多くの方々が参画するといったときには、それはそういう環境があつてこそと、私は上野議員さんと山口裕子議員さんから教わっていますので、そういうことも温かい配慮としてやっていく必要があるだろうと。

もちろん子育ては親が大原則なんですけども、それは大原則です。ですが、やっぱりなかなか今の経済状態とか色んなことを考えたときに、そうとばかりには言えない部分があるので、それは補完的に行政が応援していくと、そういう姿勢が必要だろうと認識をしております。

○議長（杉原豊喜君）

2番山口等議員

○2番（山口 等君）〔登壇〕

いずれにしろですね、来月末にはですね運営業者も決定します。決定後はですね、十分に協議なされてですね、最後の公立の民営化でございますので、より一層の保育サービスの充実等を図っていただいでですね、福祉の維持向上をお願いいたしまして、私の一般質問を終わらせていただきます。

○議長（杉原豊喜君）

以上で、2番山口等議員の質問を終了させていただきます。